

南都七大寺
がん封じの寺

大安寺

だいあんじ

右 楊柳観音像 (天平時代重要文化財)
中央 不空羂索観音像 (天平時代重要文化財)
左 多聞天像 (天平時代重要文化財)

がん封じ笹酒祭りで知られる大安寺は日本最古の寺の一つで、その創建は聖徳太子の遺言により舒明天皇が建立された「百済大寺」を始めとします。やがて飛鳥の「高市大寺」そして「大官大寺」となり、飛鳥時代の中心寺院として栄えました。そして平城遷都に伴い今日の地に遷され「大安寺」となり、奈良時代の国の筆頭寺院として仏教の総合大学の様相を呈したといわれます。中世の度重なる災禍などで壮麗なる伽藍も消失してしまいましたが、いま尚奈良時代の仏像九体が伝えられ、往時の信仰を物語っています。

Daianji Temple

讃仰殿 (宝物殿)

楊柳観音立像を始め、奈良時代の盛時を偲ぶ七体の仏像(天平時代、重要文化財)が安置されています。本堂のご本尊十三面観音、嘶堂の馬頭観音と共にこれらの仏像は平安彫刻の先駆として重要で、特に大安寺様式と言われています。その他大安寺伽藍縁起并記資財帳(天平十九年に朝廷に提出したお寺の縁起と財産目録)、古代瓦等が展示されています。



うつせみは 数なき身なり
山川の清けき見つつ 道をたずねな

●境内の万葉歌碑
大伴家持の歌(万葉集 千 四四六八)

本堂

ご本尊は天平時代の十一面観音様。癌封じ、病氣平癒、諸願成就のご祈祷、御先祖のご供養、年忌回向などが日々行われています。



嘶堂 (いななきどう)

憤怒の形相で、一面六臂の馬頭観音様がまつられています。人々の苦悩を除き、幸運をもたらす厄除け観音として信仰されています。



御祈禱

大安寺では毎日、各種ご祈禱(がん封じ・病氣平癒など)・御回向を厳修しております。

御回向

●御祈禱・御回向…毎日午前9時～午後4時
●御縁日…毎月第2日曜日(写経・写仏・護摩供・法話)

光仁会 (こうにんえ) がん封じ笹酒祭り

●1月23日

光仁天皇の御忌法要。
この日は早期より境内で「ささ酒」が温められ、癌封じの祈祷が続けられます。終日多くの善男善女が詣でて、境内は笹酒の香りと人々の熱気に溢れます。



正御影供 (しょうみえく)

●4月21日

弘法大師の御縁日。
四国八十八ヶ所や釈尊八大聖地のお砂踏み、柴灯大護摩供などがおこなわれます。



竹供養・がん封じ夏祭り

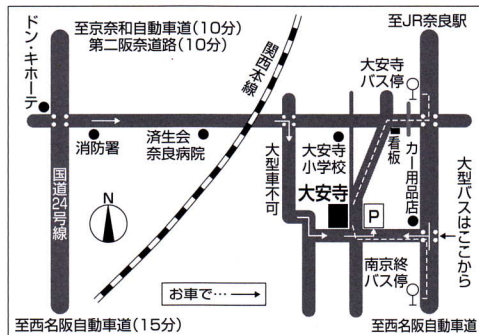
●6月23日

中国の故事にいう竹酔日。
「がん封じ夏祭り」として知られ、光仁会と共に大安寺の二大行事です。



主な年中行事

修正会 (大般若会) ……………1月1日～3日	正御影供 (弘法大師) ……………4月21日
光仁会 (癌封じささ酒祭り) ……1月23日	勤操忌 (空海上人の師) ……………5月7日
節分会 (開運星祭り) ……………2月3日	竹供養 (癌封じ夏祭り) ……………6月23日
聖徳太子御忌 ……………2月22日	お盆聖霊会 ……………8月1日～15日
馬頭観音二の午法要 (厄除け) ……3月午の日	秋彼岸会 ……………9月彼岸7日間
春彼岸会 ……………3月彼岸7日間	開山忌 (道慈律師・三論宗祖師) ……11月2日



拝観料 (本堂・収蔵庫)

■拝観時間午前9時～午後5時

大人・大学生 ……400円
高校生 ……300円
中学生 ……200円
小学生以下 ……100円

- 団体料金は30名以上からになります。(10%引き)
- 境内拝観は自由となっております。
- 春秋の秘仏(十一面観音、馬頭観音)特別公開日は100円増しになります。

癌封じの寺 南都七佛寺

大安寺

奈良市大安寺町2-18-1
TEL.0742-61-6312
FAX.0742-61-0473

ホームページ/ <http://www.daijani.or.jp/>

拝観受付 9時～16時

御祈祷 毎日9時～15時30分
(がん封じ・病氣平癒など)

御縁日 毎月第2日曜日
(写経 10時～・護摩供 13時～・法話)

阿字観瞑想 要予約

特別開扉

本尊十一面観音像 10月1日～11月30日

秘仏馬頭観音像 3月1日～3月31日

がん封じの寺 大安寺

奈良市 大安寺 2-18-1

電話 (0742) 61-6312

FAX (0742) 61-0473

<http://www.daianji.or.jp>

バス交通

近鉄
奈良駅より

イオンモール大和郡山行
大安寺行
シャープ前行
白土町行

大安寺バス停下車
徒歩約10分



- ・大和十三仏霊場
- ・大和路秀麗八十八面観音霊場
- ・神仏霊場
- ・聖徳太子御遺跡霊場
- ・大和北部八十八ヶ所霊場



南都七大寺

だいあんじ
大安寺

想定伽藍図(江戸時代)



楊柳觀音立像

大安寺

大安寺は日本最古の寺院の一つで、その創建の由来は「大安寺伽藍縁起并流記資財帳」（七四七）によって知ることができます。

それによりますと、聖徳太子が「天下太平・万民安楽」の祈りの道場として平群の地に「熊凝精舎」という一院を建立され、薨去の際、舒明天皇に託して国の大寺となすよう遺言せられました。天皇はその遺願により「百済大寺」を建立、これがわが国最初の官寺となりました。やがて飛鳥の藤原京で「高市大寺」次いで「大官大寺」となり飛鳥時代の中心寺院として栄えました。そして平城京遷都に伴い今日の地に遷されて「大安寺」となつたのです。

奈良時代には、国の筆頭寺院として八八七人の学僧を擁し、仏教の総合大学の様相を呈したといわれます。

中世に度重なる災禍などにて壮麗なる伽藍も消失し寺運衰微しましたが、奈良時代の仏像九体が今に伝えられています。境内も近年漸次整備され、天平の仏さまに魅せられた方々や御祈祷、御供養等で心の安らぎを求めて多くの参詣があり、人々の篤い信仰が寄せられております。

本堂

御本尊は天平時代の十一面観音（重文）。癌封じなどの祈祷が日々行われています。大和十三仏霊場第十三番虚空蔵菩薩の霊場です。

嘶堂

忿怒形の天平秘仏・馬頭観音（重文）がまつられています。苦悩を除き福を招く厄除け観音さまです。

小子坊

写経道場としていつでもお写経ができます。毎月第二日曜日には写経会。阿字観瞑想もできます。

護摩堂

毎月のご縁日に護摩祈願・法話がおこなわれています。

讃仰堂（宝物殿）

- ・不空羼索観音立像（天平時代・重文）
- ・楊柳観音立像（天平時代・重文）
- ・聖観音立像（天平時代・重文）
- ・持国天王像（天平時代・重文）
- ・增長天王像（天平時代・重文）
- ・広目天王像（天平時代・重文）
- ・多聞天王像（天平時代・重文）
- ・大安寺伽藍縁起并流記資財帳（天平十九年）出土の古代瓦
- ・創建当時の伽藍模型

境内

- ・稚児大師像
- ・弘法大師七才像
- ・御竹地藏尊
- ・供養塔
- ・大安寺歴代先師の供養塔
- ・いのちの小径
- ・いのちの碑
- ・美流孔塚（みるくづか）
- ・乳癌治癒の記念塚
- ・万葉の歌碑

大伴家持の歌（万葉集二十 四四六八）



うつせみは 数なき身なり

山川の清けき見つつ 道をたずねな

光仁会（こうにんえ）がん封じ笹酒祭り 一月二十三日

光仁天皇（七〇九〜七八二）の御忌法要。

天皇は白壁王といいた野時代、しばしば当寺に祈誓を凝し、また竹林で「林間酒を温める」風流を楽しまれました。験あつて健康長寿を保ち、実に六十二歳で帝位につかれました。そして、天下の太平と万民の安楽、殊に人々の病苦を憂い、悪病退散の祈りを重ねられたといえます。この故事にあやかり、癌などの悪病を封じて息災にすごそうと行われるのが「がん封じ笹酒祭り」です。この日は早朝より境内で「ささ酒」が温められ、癌封じの祈禱が続けられます。終日多くの善男善女が詣でて、境内は笹酒の香りと人々の熱気に溢れます。



正御影供（しょうみえく） 四月二十一日

弘法大師（空海上人）の報恩法要。

大師は若き日当寺に学び後年別当にも補されました。

この日は弘法大師御遺髪が特別開扉されて、報恩の誠が捧げられ、四国八十八ヶ所や釈尊八大聖地のお砂踏み、柴灯大護摩供などがおこなわれます。



竹供養・がん封じ夏祭り 六月二十三日

この日は中国の故事にいう竹酔日。竹を植えるると良いとされ、古来より人々の生活と文化に多大な恩恵を与えてきた竹に感謝し供養します。「がん封じ夏祭り」として知られ、光仁会と共に大安寺の二大行事です。



開山・道慈律師忌 十一月二日

道慈律師（？〜七四四）の御忌法要。

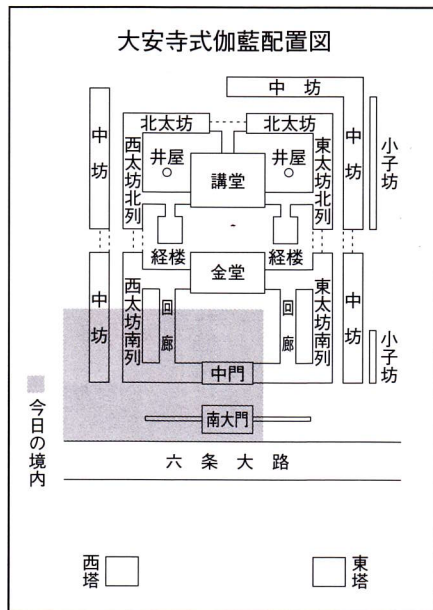
律師は唐に十六年間学び、奈良時代仏教界の指導的立場でありました。

また、大安寺の天平伽藍を完成させた律師の鴻徳を偲び、律師が創始した大般若転読法要を厳修し、報恩の誠を捧げます。



大安寺旧伽藍

古の大安寺は二十五万平方メートルの広大な敷地に金堂、講堂を中心とした九十余棟の建物が立ち並んで偉容を誇っていました。三面僧坊には八八七人の僧侶が住んで、勉学修業に励んだのです。道慈律師が唐の長安に学び、西明寺の伽藍をモデルに大安寺を整えたといわれています。南大門のはるか南には七重の双塔が聳え立ち、東大寺に対して南大寺とも称されました。



大安寺に住した名僧知識

大安寺は奈良時代における仏教の総合大学の観を呈し、あまたの名僧知識が居住して、三論宗を始め、律・華嚴など六宗を兼学しました。日本仏教の源泉といわれた寺で、渡来僧や大宮人が行き交い、文化の華を咲かせたのです。

道慈律師 (どうじりつし)

三論宗の祖師、大安寺の天平伽藍を完成させた。

インド僧。大仏開眼の導師として知られる。

唐僧。大仏開眼の呪願師。

ヴェトナム僧。林邑楽 (伎楽) を伝えた。

新羅留学僧。華嚴を伝えた。

三論の学匠。

入唐し、鑑真和尚の招請をなした。

最澄の師、近江の国師となる。

空海の師。岩淵の僧正。

伝教大師。比叡山を開創、天台宗

弘法大師。高野山を開創、真言宗

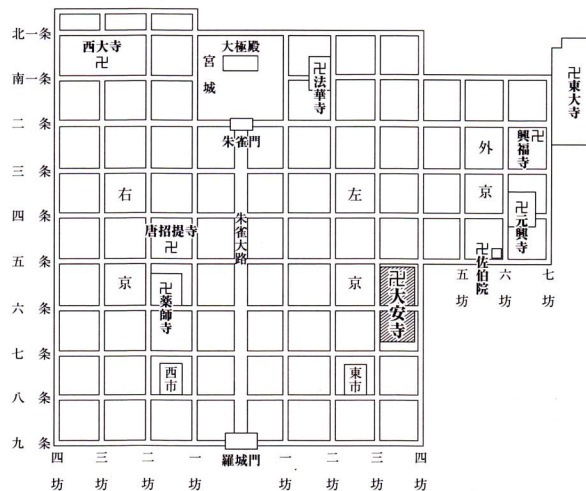
宇佐八幡を勧請。岩清水八幡の開祖。

俗別当を勤められた。

等々

主なる年中行事

修正会 (大般若会)	一月一日〜三日
行教忌	一月二十八日
光仁会 (癘封じささ酒祭り)	二月二十三日
節分会 (開運星祭り)	二月三日
聖徳太子御忌	二月二十二日
菩提樹那忌	二月二十五日
馬頭観音二の午法要 (厄除け)	三月午の日
春彼岸会	三月彼岸七日間
正御影供 (弘法大師)	四月二十一日
本願天皇御忌 (推古帝)	四月三〇日
勤操忌 (弘法大師の師)	五月七日
伝教大師忌	六月四日
青葉祭 (弘法大師誕生法要)	六月十五日
竹供養 (癘封じ夏祭り)	七月七日
弁才天夏祭り	七月七日
真然忌 (伝灯国師)	八月一日〜十五日
秋彼岸会	九月十一日
崇道天皇忌	九月彼岸七日間
開山忌 (道慈律師・三論宗祖師)	十一月二日



平城京と大安寺

大安寺式軒瓦

奈良時代、大安寺の伽藍に最も多く用いられた軒瓦。

軒丸瓦は単弁12葉の蓮華文、軒平瓦の牛頭のような中心飾りが特徴的。

